



お気に入りのガーベラを摘み取った児童

どの色もすっごくきれい

■ガーベラ花摘み体験／細江小学校

3月10日、細江小学校の3年生80人は、和田地区(中里区)にあるビニールハウスを訪れ、ガーベラの花摘み体験を行いました。

この体験は、市の特産品であるガーベラについて学び、親んでもらおうと、ハイナガーベラ部会(八木広之会長)が企画。児童らは、白や黄、赤色など色鮮やかなガーベラの中から3本を丁寧に摘み取り、ラッピングして持ち帰りました。

参加した児童は、「家族にプレゼントしたい」と笑顔で話してくれました。

地域の歴史や文化財の魅力を発見

■牧之原市文化財めぐり

市文化財めぐりが勝間田地区で3月28日に開催され、34人が参加しました。

今回の文化財めぐりは、NPO法人勝間田塾のメンバーと市職員が歴史の説明を加えながら、勝間田城跡(県指定文化財)や最明寺、旧木下家などを訪れました。

参加者たちは初めて巡る文化財に、「もっと詳しく歴史の勉強をしたい」、「機会があればまた参加したい」と話し、数多くの発見に感動していました。



最明寺の千手観音像(市指定文化財)前で説明を受ける参加者

自分たちの手でもっときれいな川に

■勝間田川くり～ん作戦

勝間田川くり～ん作戦が3月8日に行われ、榛原中学校の3年生をはじめ、多くの地域住民が参加しました。

この活動は、桜並木の花見客で賑わう勝間田川をきれいにしようと「勝間田川を魅せる会」が毎年開催。竹橋から後川橋までの2キロメートル区間を両岸に分かれ、紙くずや空き缶などを拾いました。

参加した中学生は、「きれいに見えていたけど、思った以上にゴミがたくさんあった。みんなできれいにしておくことが大切」と話してくれました。



きれいな勝間田川を守るためにごみ拾いをした中学生



榊原副社長からマスコットキーを受け取る市長

寄贈車を市のために有効活用

■ハイブリット車寄贈

株式会社小糸製作所が、創業100周年を記念した社会貢献活動の一環として、ハイブリット車を市へ寄贈しました。

3月20日には、寄贈式が市役所榛原庁舎で行われ、榊原公一副社長は、「お世話になっている牧之原市のために役立ててほしい」と話しました。

西原市長は、「公用車として有効に活用させていただきます」と感謝の言葉を述べ、榊原副社長に感謝状を贈りました。



坪池教育長から市教育委員会表彰を受ける受賞者

1年間の活躍と努力をたたえる

■市教育委員会表彰・山崎こども教育賞表彰

3月7日、学業や文化活動、スポーツなどで優れた成績を残した児童生徒などをたたえる、「市教育委員会表彰」と山崎こども教育振興財団主催の「山崎こども教育賞表彰」の表彰式がい～らで行われました。

市教育委員会表彰は、県大会1位または同等以上の成績の30人、2団体が受賞。さらに、第34回全国空手道選手権大会小学2年生組手の部で優勝した、岩倉未桜さん(牧之原小)をはじめ、全国大会で好成績を取った4人には、「少年少女ノーベル賞」も贈られました。

また、山崎こども教育賞表彰では、「学習における意欲的な取り組み」や「まわりの人への自然な思いやり」などが評価された29人が受賞しました。

看護師として新たな一歩を踏み出す

■静岡県中部看護専門学校卒業式

3月7日、焼津市にある組合立静岡県中部看護専門学校で卒業式が執り行われ、看護師になるための知識や技術を学んだ41人が卒業しました。

卒業した増田美希さんは「患者さん一人一人に適した看護をしたい」、佐藤友理さんは「患者さんに寄り添える看護師になりたい」とそれぞれ抱負を語ってくれました。

増田さんと佐藤さんは、4月から榛原総合病院に勤務し、患者さんに信頼される看護師を目指して頑張っています。



榛原総合病院に就職した佐藤さん(左)と増田さん(右)

ズームイン！
カシャ！！



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



小堤山公園へ避難する波津区の住民たち

夜間でも自ら率先して避難

■夜間地震・津波避難訓練

県の津波対策推進期間(3月6日～15日)に合わせ、市内では夜間地震・津波避難訓練が3月6日に行われ、6,941人の市民が参加しました。

訓練は震度7の大地震が発生し、大津波警報が発表されたという想定で実施。午後7時ごろにサイレンと同報無線で避難を呼びかけると、参加者は、懐中電灯などで照らしながら、続々と避難場所である高台や学校の屋上などへ避難しました。

また、自主防災組織を中心に、避難場所や避難経路、夜間での危険箇所などを再確認しました。